

ART
bee
HIVE

アート ビー ハイヴ

(公財)大田区文化振興協会が2019年秋に創刊した、地域の文化・芸術情報を盛り込んだ季刊情報紙。「BEE HIVE」とは、ハチの巣の意味。公募で集まった区民記者「みつばち隊」と一緒に、アートな情報を集めて皆さまへお届けします！

紙面で紹介しきれなかった
情報をWEB版「+ bee!」で
掲載しています。



公式PRキャラクターリスビー



①



②



③

春の
大田

アート聖地巡礼*



④



⑤



⑥

①東急池上線「石川台駅」 ②旧国鉄蒲田操車場 ③羽田平和の大鳥居 ④桜坂 ⑤大田区立矢口南児童公園 ⑥東急多摩川線「鵜の木駅」

作品世界とリアルが重なる旅に出かける。

どんよりとしたモノクロームの世界が華やかに色づく季節・春の到来と共に、どこかへ出かけたくくなります。大田区は数多くのアート作品に取り上げられています。そこで、お勧めなのが様々なアート作品の舞台となったスポットを巡る旅です。

最初に取り上げるのは、松竹キネマ蒲田撮影所でも活躍した巨匠・小津安二郎*1監督最後の映画『秋刀魚の味』(1962)。見合いを勧められた路子が、密かに想いを寄せる三浦と電車を待つ駅が東急池上線「石川台駅」です。松本清張*2原作の『砂の器』(1974)では、ドラマの発端となる殺人事件が旧国鉄蒲田操車場で起ります。かつての蒲田駅ビルや呑川(宮之橋付近)の懐かしい風景を見ることができます。『シン・ゴジラ』(2016)はまるで大田区紹介映画。羽田平和の大鳥居、旭橋、呑川新橋、蒲田東口商店街、丸子橋、多摩川浅間神社がそれぞれ

重要シーンの舞台となっています。

2004年に発売されたゲームから展開されたアニメ『CLANNAD』(2007-2009)。映画、TVシリーズ化されました。桜坂、田園調布旧駅舎、東急多摩川線「沼部駅」前が登場します。

音楽ではアイドルグループ・桜坂46『無言の宇宙』(2021)のプロモーションビデオに矢口南児童公園、新田神社、東急多摩川線下丸子4号踏切、東急多摩川線「武蔵新田駅」が登場します。昨年発表された乃木坂46のチャート1位に輝いたシングルヒット『ネーブルオレンジ』(2025)。そのプロモーションビデオでは多摩川大橋、東急多摩川線「矢口渡駅」「鵜の木駅」、東急池上線「長原駅」を背景に青春の物語が進行します。

春の日差しの中、作品世界とリアルが重なる旅・アート聖地巡礼をしてみませんか。

『秋刀魚の味』

監督：小津安二郎

出演：笠 智衆、岩下志麻、佐田啓二、東野英治郎、
杉村春子 ほか

『砂の器』

監督：野村芳太郎

出演：丹波哲郎、加藤 剛、島田陽子、佐分利 信、
緒形 拳 ほか

『シン・ゴジラ』

脚本・総監督：庵野秀明

監督・特技監督：樋口真嗣

出演：長谷川博己、竹野内 豊、石原さとみ、
市川実日子 ほか

アニメ『CLANNAD』

制作：京都アニメーション 監督：石原立也

桜坂46『無言の宇宙』

作詞：秋元 康 作曲：barbora・TomoLow

乃木坂46『ネーブルオレンジ』

作詞：秋元 康 作曲：中村泰輔

4面に「アート聖地巡礼MAP」を掲載しています。

*聖地巡礼：昔から映画や小説の舞台を訪ねる旅はありましたが、1990年代頃からアニメや漫画のファンが作品の舞台となった場所を巡るという意味から聖地巡礼と呼ぶようになったと言われています。
*1:1903-1963。日本の映画監督。代表作は『大学は出たけれど』(1929)、『長屋紳士録』(1947)、『東京物語』(1953)など。*2:1909-1992。日本の小説家。歴史小説・現代小説の短編を中心に執筆。代表作は『ゼロの焦点』、『砂の器』など。

石黒正数

漫画家



東急多摩川線「下丸子駅」前に立つ石黒さん

©KAZNIKI

こんな東京があるんだ。これをそのまま漫画に描こう。

下丸子をモデルにした丸子商店街を舞台に、女子高生・嵐山歩鳥の周りで起きる日常の出来事を描く漫画『それでも町は廻っている』(以後『それ町』)。2005年から2016年まで長期連載され、2010年にはテレビアニメ化されました。現在も新たなファンを生み出し続ける人気作品です。作者である石黒正数さんにお話を伺いました。

「2003年に上京し、2005年まで下丸子に住んでいました。僕は田舎出身なので、東京にろくなイメージがなかった。東京といったらコンクリートジャングルと犯罪と詐欺と失業・・・そんなイメージでした(笑)」と語る石黒さん。「いい意味でカルチャーショックを受けました。ちょっと抽象的ですが、下丸子は人が住む町だなとすごく感じる。僕の東京観が一変したというか。こんな東京があるんだなと思った。それをそのまま漫画に描こうと思いました」。

『それ町』のテーマについてお聞きすると、「コミュニケーションを描きたかった。それは下丸子の町にコミュニケーションがあったからそう思ったんです。当時、僕は青果店の2階に住んでいました。一日中お客さんを呼び込む大将の声が聞こえていました。『高知の泥が付いた

ニンジンが入ったから、これは御御御付けにするといいよ』といった会話をお客さんとずっとしているんです」。

『それ町』は石黒さんの半生を描いた作品でもあります。「キャラクターを通して、僕が高校生の頃に友達と交わした会話だったり、友達とやらかしたことだったりをそのまま描いています。うちの母が毎日毎日作ってくれたお弁当を思い出せる限り主人公の歩鳥のお弁当として描き込んだり、ほぼ自分の人生の転写みたいな作品です」。最後に石黒さんにとって下丸子はどんな存在なのかをお聞きしました。「それはもう特別です。東京の中の故郷みたいなところですよ。今日はなんか帰省したような気分ですね。実家はないんですけど(笑)」。



『それでも町は廻っている』
(ヤングキングコミック)
全16巻

石黒正数 Ishiguro Masakazu

1977年福井県生まれ。2000年に『ヒーロー』でアフタヌーン四季賞の四季賞を受賞し、デビュー。2005年5月号から2016年12月号まで、『それでも町は廻っている』が『ヤングキングアワーズ』(少年画報社)にて連載。2010年にはTBSテレビほかにてテレビアニメ化された。ほかに『ネムルバカ』(2006-2008)、『天国大魔境』(2018-)などの作品がある。

商店街 × アート vol.24

大田区内の商店街にあるアートスポットやイベントを紹介します。



今日も人々の思い出を紡ぎ廻る屋上観覧車「幸せの観覧車」

人生のアルバムの一ページに載っている、そんな存在になりたい。

東急プラザ蒲田屋上「かまたえん」

📍 大田区西蒲田 7-69-1

🚶 JR 京浜東北線・東急池上線・多摩川線「蒲田駅」直結

🕒 10:00-18:00 冬期間(12月~2月)10:00-17:00 ※荒候時は中止

📅 1月1日と年2回の不定期休

東急プラザ蒲田屋上「かまたえん」(蒲田)

東急プラザ蒲田にある「かまたえん」。都内で唯一の屋上観覧車がある屋上広場です。1968年のオープン以来、地元の人々に愛される憩いのスポットであり、数多くの映画・ドラマの舞台として登場する蒲田のランドマークです。

「撮影のために作り込まなくてもいい自然なレトロ感がある。とは言え現役の施設ですので、べたべたの懐古趣味ではなく、現代のものを取り入れている。今と昔の良いところ両方があるのがほかにない魅力だと思います」と語る東急プラザ蒲田総支配人の磯部隆さん。

「蒲田の街を愛していただきたいし、愛していただけるきっかけ作りを我々は提供したいと思っています。映画やドラマの中で『かまたえん』を見ることで、皆さんの中の蒲田への思

いが深まってくだされば嬉しいですよ」。

今後についてお聞きすると、「皆さんがそれぞれの人生のアルバムを作る時に、その1ページに『かまたえん』が載っている、そんな存在になりたいと思っています」。



総支配人の磯部さん

*今後のイベント情報は、ホームページなどをご覧ください。

松林うらら

俳優・プロデューサー・監督



主人公マチ子（松林さん）が弟の恋人節子（幽霊？）と別れたバーボンロードにて

ヘアメイク：高田知美、スタイリスト：根橋優太 ©KAZNIKI

映画は、街と人の記録を残していく装置でもあります。

蒲田を舞台に、一人の女優を軸に家族・仕事・結婚・ハラスメントなど、現代を生きる女性たちの諸問題をリアルに描いた映画『蒲田前奏曲』。2020年、第15回大阪アジア映画祭において、締めくくりを飾る作品として上映され高い評価を得ました。同作品の主演、プロデューサーを務めたのが松林うららさんです。

「2017年公開の主演映画『飢えたライオン』*で、東京国際映画祭やロッテルダム国際映画祭といった国内外の映画祭に参加する機会をいただいた。そこで多くの監督やプロデューサーと出会い、映画への取り組み方を学びました。俳優として待っているだけでなく、本当にやりたいことや表現したいことがあるなら、自分で作ろうと考えるようになりました」と語る松林さん。

初プロデュース作品の舞台を蒲田に選んだ理由をお聞きすると、「やっぱり地元なんで（笑）。『自分で何を作ろうか』と考えたら、蒲田を舞台にしようと。蒲田でマチ子という売れない女優がいろんな人と会うことで面白い物語が生まれるはずだというのが始まりです。映画の中に蒲田の街を残したい気持ちもありました。粋で

味のある街だと思っていたので、映画に残せて良かったです。画的に映画になる街だと再発見しました」。

『蒲田前奏曲』の撮影を通じて、若い頃とは違った視点で蒲田を見ることができたそうです。「渋谷や新宿とかに学生時代遊びに行っていましたけど、今は『あ、蒲田でいいんだ』という気持ちになっております（笑）。仕事の打ち合わせも蒲田です。蒲田が一番落ち着くんです」。

最後に読者の皆さんにメッセージをいただきました。「映画は、街と人の記録を残していく装置でもあります。『蒲田前奏曲』は色々なものが詰まっている映画ですので、地元大田区の方々にぜひ観てもらいたと思います」。

*緒形貞臣監督作品。「SNS」「フェイクニュース」があふれる現代の報道被害と人間の加虐性を描く。

松林うらら Matsubayashi Urara

1993年大田区生まれ。『飢えたライオン』（2017）に主演。山中瑠子『21世紀の女の子』（2019）出演。『蒲田前奏曲』（2020）主演、プロデュース。『ブルーイマジン』（2024）で監督デビュー。現在、埼玉県幸手市を舞台に、長編映画の監督・脚本準備中。

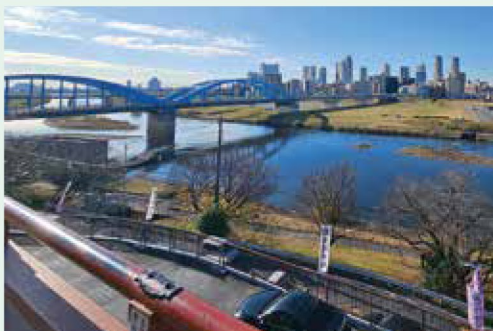
📷 urara_matsubayashi



DVD
『蒲田前奏曲』
(アメイジングD.C.)

アートレガシー inおおた vol.23

大田区内にある文化財に
スポットを当て紹介します。



浅間神社の展望台から撮影した丸子橋

丸子橋と浅間神社

📍浅間神社（大田区田園調布 1-55-12）

丸子橋と浅間神社（通称：多摩川浅間神社）は映画『シン・ゴジラ』（2016）のロケ地です。劇中で大田区へ侵入したゴジラは、丸子橋を蹴り飛ばしてしまいます。ゴジラを迎え撃つべく浅間神社に指揮所が置かれ、タバ作戦が実行されました。今回は、ゴジラ襲来にも負けず堂々たる姿を見せる橋と神社のご紹介です。

丸子橋は多摩川に架かる橋で、田園調布と神奈川県川崎市を結びます。中原街道は昔から重要な交通路でしたが、丸子付近には橋がなく、渡し舟で川を往来していました。明治17年（1884）より、中原町長の安藤安を中心に架橋運動が始まりました。看板を設置しピラを配り、50年の歳月を経た昭和10年（1935）、ついに丸子橋は開通しました。

丸子橋から川沿いを北に歩くと、浅間神社に着きます。由緒によれば、出陣した源頼朝を案じた妻・北条政子がこの地から富士山に祈りました。政子は身に付けていた観音像をここに祀り、その像は村人から富士浅間大菩薩と呼ばれたそうです。承応元年（1652）、この地から高さ約30cmほどの観音像が出土しました。実際に政子が所持していた像であるかは詳細な研究が待たれますが、夫を想う妻の気持ちは800年にわたり伝えられています。

晴れた日には、神社の展望台から富士山が見えます。今も人の思いを受け渡す橋と神社へ、聖地巡礼してみませんか。

文：稲葉実夢（大田区教育委員会 文化財担当）

📞 大田区教育委員会 文化財担当 ☎ 03-3777-1281

アート聖地巡礼MAP



リズビーReport

リズビーが前号で紹介した人物・場所・イベントなどを訪れます。



馬込アートギャラリー

開催中～5月10日(日) 大田区南馬込4-10-4
2月1日に開館した馬込アートギャラリーを訪れたリズビー。郷土の画家・安西啓明の大きな屏風絵は、思わず見入ってしまう迫力! 満開の桜に気分も高揚。新たなアートを求めてこれからも飛びまわります。

リズビー公式 X ARTbeeHIVE Instagram abh_rhythbee

注目EVENT

鍊星舎の仕事展vol.6『花と遊ぶ』

4月18日(土)～26日(日) 13:00-18:00



長野の池上直人・西村由美ご夫妻の吹きガラス作品展。今回のテーマは『花と遊ぶ』。春の草花をご用意しますので、鍊星舎の花器に花を挿して楽しんで頂けたらと思っています。

アトリエ木里(大田区田園調布本町2-10 1F)
東急池上線「御嶽山駅」徒歩5分
無料(休)4月22日(水)・23日(木)
03-3721-5115(会期中のみ)

📍 = 場所 / 🚶 = アクセス / 🕒 = 開催時間・営業時間 / 📅 = 休館日・定休日 / 💰 = 料金 / 🏠 = 主催 / 🤝 = 共催 / 🙏 = 後援 / 📞 = お問い合わせ / ☎ = 電話番号 / ✉ = メール / 🏠 = ホームページ

発見! 街角アート みつばち隊の皆さんが、大田区内の街角で見つけたアートなモノ・パショ・コトを紹介するコーナーです。

足元にも (ART) bee HIVE みつばち隊: 山王すばこさん

JR大森駅西口前にある野口ビルは、1934年に建てられた築90年を超えるビルです。毎日通勤時に通りながらレトロな雰囲気を楽しんでいます。ある時、階段の踊り場がハニカム模様(蜂の巣模様)のタイルなことに気付きました。まさにbeehive(みつばちの巣の意)! 昭和モダン期の建築当初からの意匠だったのでしょうか。わくわくが止まりません。



池上駅のシャッターは、 アートとインフラの二刀流 みつばち隊: 黒湯あつしさん

東急池上線池上駅のホーム上に、東急電鉄の公式キャラクター「のるん」が描かれているシャッターを発見。このシャッターは、池上本門寺お会式開催日などで臨時改札を設置する時に開かれるそうです。また「のるん」のイラストは、池上駅のお客さんに安らぎと元気を与えてくれます。駅のインフラとパブリックアートが融合した場所だと深く印象に残りました。



編集後記



みつばち隊: 馬込RINさん

『風と共に去りぬ』の小説に魅せられ、ゆかりの地を訪ねたいと思うこと数年。ある日「アトランタの著者の記念館、ニューオリンズのプランテーションを巡る旅」の企画と必然的な出会い。小説の世界にたっぷり浸った巡礼旅です。



みつばち隊: 羽根付きギョウザさん

アートではないですが、御嶽神社の夜桜が私にとっての聖地です。ライトに当たった花びらが艶やかに輝いている姿はまるで、人格ならぬ「木格」を持って何かを語りかけているかのよう。この木をモチーフに作品を描いてみたいです。



みつばち隊: 池上のワンコさん

大田区には、ドラマや映画の撮影に使われた場所が数多くあります。近所だと知ると、後日、愛犬と訪ねるのが私のひそかな楽しみです。友人にその話をしたところ、「ロケ地刑事(デカ)」と呼ばれるようになりました。



みつばち隊: 雪谷のさくらさん

私の聖地巡礼はドラマが中心。ひと夏の出来事を描いた『セミオトコ』の撮影地が地元だと知り訪れると、小道具や台本が展示され、多くの人が足を運んでいました。物語が風景に溶け込み、見慣れた街が特別な場所に感じられます。



みつばち隊: 本門寺の青空さん

16歳の夏休みに私は旧国鉄の鈍行に揺られていました。目指すは大林信彦監督の映画『時をかける少女』の舞台となった尾道です。主人公役の原田知世が眺めた静かな瀬戸内の海を間近にした時の高鳴る胸の響きを今でも覚えています。



編集長: MOJOさん

逆聖地巡礼経験があります。昔、法事で京都に行った時のこと、そのお寺が世阿弥の能楽の舞台になっていることを知りました。登場人物である和泉式部に興味を持ち、柄にもなく『和泉式部日記』を読んだのでした。

発行: 公益財団法人 大田区文化振興協会

〒144-0052 東京都大田区蒲田 5-37-3 大田区民ホール・アプリコ

☎ 03-3750-1614(月～金 9:00-17:00) ✉ art-bee-hive@ota-bunka.or.jp

🏠 ota-bunka.or.jp/ X ota_bunka Instagram otabunkaart

📺 大田区文化振興協会チャンネル 🗨 大田区文化振興協会 編集・デザイン: MOJOWORK

ART bee HIVEの
詳しい情報はこちら



大田区のアートな情報募集中!

情報をお寄せくださった方には抽選で、情報紙ART bee HIVEの公式PRキャラクターリズビー & 大田区の公式PRキャラクターはねびよんの限定コラボグッズをプレゼント!



応募はこちらから!



この情報誌には印刷インキ工業連合会認定の植物インキを主に使用しています。